

「性感染症診断・治療ガイドライン 2020」梅毒の項を下記のように一部改訂します。

●50 ページの「V 治療」

「《第一選択》」を「《第一選択》A」に変更。

「《第一選択》A」のブロックの後に「《第一選択》B」のブロック(下記)を挿入。

《第一選択》B

ベンジルペニシリンベンザチン，筋注，1回240万単位，早期梅毒では1回のみ，後期梅毒では1週間隔で計3回<sup>10)</sup>(EL;III)

梅毒治療の国際的標準薬である。わが国では2022年1月に発売されたばかりで使用経験に乏しいことから，使用上の注意点について添付文書やメーカーの医師向けサイト(<https://pfizerpro.jp/>)を参照のこと。

●51 ページの「VIII 妊娠期梅毒について」

「③」の段落を下記に差し替え。

③治療については経験のある専門家に紹介することを推奨する。わが国で長年使用されてきた経口ペニシリン(主としてアモキシシリン)<sup>16)</sup>に加えて，梅毒治療の国際的標準薬であるベンジルペニシリンベンザチン(BPB)筋注製剤が2022年1月末より選択可能となった。なお，妊婦でBPB筋注製剤を使用する場合，ヤーリッシュ・ヘルクスハイマー反応による胎児切迫仮死に対応できるよう，入院下の観察を勧める意見がある。<sup>19)</sup>

●52 ページの「文献」

文献19(下記)を追加。

19) Genç M, et al.: Syphilis in pregnancy. Sex Transm Inf 2000; 76: 73-79.

以上